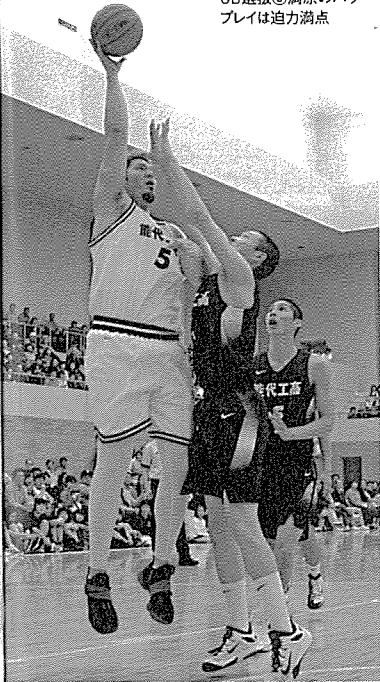


能代工高の全国大会初優勝から50年!

盛り上がった記念メモリアルイベント!!

OB選抜⑥満原のパワープレイは迫力満点



6月10、11日に能代市総合体育館ほかで、「バスケの街能代記念事業 能代工高全国大会初優勝から50周年記念メモリアルイベント」が開催された。このイベントは能代工高が1967(昭和42)年の埼玉国体で全国大会初優勝してから50年経過したことを記念したもの。これまで受け継がれてきた伝統により、能代市は「バスケの街」として全国に認知されているが、このイベントには全国大会初優勝時のメンバーをはじめ、歴代のOBが集まる能代工高ファンにとっては見逃せないものになった。

当日はOBによる市内小学生に向けたクリニックからイベントがスタート。各ピリオドに年代別OBが戦う「レジェンドマッチ」や、メインゲームである「現役対OB選抜」が行われた。

メインゲームが始まる頃には観客も約1,500人集まり、体育館はほぼ満員でかなりの熱気に包まれるまでに。試合の方は、現役がOB選抜のレベルの高いプレイに食らい付いたが、86-66でOB選抜が勝利。この儀式とも呼べる一戦を経験し、現役部員は毎年インターハイに挑むのである。

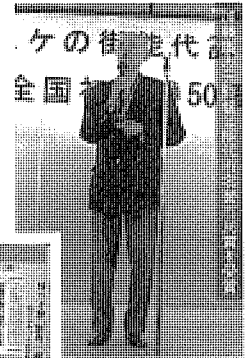
このほか、翌11日には能代市にある国登録有形文化財の旧料亭「金勇」でOB(畑山、菊地、満原など)による座談会が行われた。

初優勝メンバーの山本富美夫氏(右)



特トビ

TOPICS



昭和42年当時の新聞記事



(平成10年卒/OB選抜④)

(平成11年卒/OB選抜⑥)

これだけの観客が集まると、やはり「バスケの街・能代」を実感します。イベントで重要なのは、全国大会に向かう前に行うOB戦。自分が現役のときは嫌でしたが(笑)、そういう雰囲気作りを自分たちもできたのかなと思います。現役はこれからインターハイに向けて頑張っていくと思いますが、対戦してみてもっとプレイに気持ちを表してもいいのでは?と感じました。ぜひ、全国を獲れるよう活躍してほしいです」

「実際に、これだけの数のOBが集まる機会はなかなかありません。現役もこのようなチャンスに、さまざまなものを吸収して良い経験を積んでほしいですね。試合では、能代工らしい「泥臭さ」はOBの方が上回っていたので、その部分は現役に肌で感じてほしいと思いました。自分も現役時代、ほかの高校生が経験できないようなことをOBと試合をすることで学ばせてもらいました。地元の人たちにも勝つことで喜んでいただけると、その期待に応えてもらいたいです」

内海知秀

(昭和52年卒/OB選抜コーチ)



「まず、全国大会初優勝から50年ということですが、日本の高校界でトップを50年間続けるのはすごいことです。また、OB戦はOBも「現役のために」と一生懸命プレイするところが、この能代工の素晴らしいところだと改めて感じました。現役は、それにもっと立ち向かっていける力が付いてくれば、もっとチームは良くなると思います。去年の悔しい思いがある中で、自分たちの力がどこまで通用するのかをチャレンジしてほしいです。それを継続していくことで、また全国優勝というものが見えてくると思います」